

平成26年度スーパー食育スクール事業 全国連絡協議会



食育と学力・体力の向上
健全な食習慣を形成し、
食育と学力・体力の向上を
目指すための食育の研究



すてきな笑顔と花のまち

ひがしかぐら





東神楽の概略

東神楽町

スーパー食育スクール事業指定校

東神楽町東神楽小学校



事業目標

食育の充実を図り、生活や学習の基盤となる望ましい習慣の改善と定着を図る。

現状と実態

《目指す子ども像》

○低学年

- ・好き嫌いせずに食べようとする子
- ・朝ごはんをしっかり食べようとする子

○中学年

- ・健康に過ごすことを意識して、いろいろな食べ物を好き嫌いせずに食べようとする子
- ・正しい生活習慣で過ごそうとする子

○高学年

- ・食事が身体に及ぼす影響や食品をバランスよく組み合わせて食べることの大切さを理解し、一食分の食事が考えられる子
- ・自らの健康・体調を維持しようとする子

『ほっかいどう「学力・体力向上運動」』

学力の現状を再把握し、成果指標の細分化を行う

■集中的態度に優れるが、語彙力、表現力・創造力、コミュニケーション能力、問題解決を図る力に課題がある。

■家庭での学習については、宿題には比較的熱心に取り組むが、復習・予習、調べ学習など自らの必要、主体性に基づく学習が求められる。

- 瘦身及び肥満体型児童
- 朝食欠食児童
- 欠席児童の病欠率
- 学童健診要精密検査者
- 不定愁訴の出現率

学力の現状を再把握し、成果指標の細分化を行う

- 1 学習状況調査
- 2 質問紙の「算数・国語はよくわかるか」に対する**否定的な回答**をする児童数を**減少**させる。
(国語H25年度25%→2%1人, 算数H25年度10%→10%4人)
- 3 児童アンケートでは、「**学校が楽しい(3.6ポイント)**, **勉強がよくわかる(3.5ポイント)**」を共に**4点満点**へ。
- 4 標準学力検査NRT
国語・算数の全学年 **全領域で全国比を100%にする。**
3年 読むこと88→98 4年 量と測定105→90
5年 量と測定94→99
- 5 1時間以上の家庭学習をしている児童は40%
- 6 教師による観察・児童の学習の様子の見とり

学力の現状を再把握し，成果指標の細分化を行う

学力・学習状況調査の正答率

学力・学習状況をより詳細に把握することができるよう次のように細分化

ア 児童質問紙にある学習の取り組み方などに対する否定的な回答の減少

イ 標準学力検査でNRT・CRTの全国標準値100以上の到達

ウ 教師による児童の観察により「学習に集中できていない児童」の減少

評価指標を向上させるための仮説の改善

仮説

- 栄養教諭と学級担任のTTによる食育授業
- ランチルームでの全校給食を活用した日常的な指導

学校における食育を充実させる

家庭教育力の向上

健全な食習慣の形成

子どもたちの学び意欲

よりよく生きようとする思いを高める

学力・体力の向上によい成果が得られる

今年度から新たに試みている，食育の実際

現状と実態

仮説

実践の概要

- I 全校給食等を活用した日常的な指導
- II 栄養教諭の活用
- III 保護者への啓発

スーパー食育スクール推進委員会での
意見も生かして

I 全校給食等を活用した日常的な指導

食材に関するミニミニ講話

今日のメニューのホウレンソウは北海道産です。
ホウレンソウには、貧血を予防してくれる鉄分が多く含まれています。

推進委員会では！

食べることは、命をいただくこと、食材への感謝や自然愛・生命尊重を重視して指導してほしい。

マナー
指導

マナー5か条

- 1 エプロン・バンダナ,
心をこめた挨拶！
- 2 食器をもって食べよう！
- 3 はし名人になろう！
- 4 のこさず食べよう！
- 5 口に食べ物を入れて
しゃべらない！



Ⅱ 栄養教諭による食育授業

6つの食育の指導目標を踏まえた授業づくり



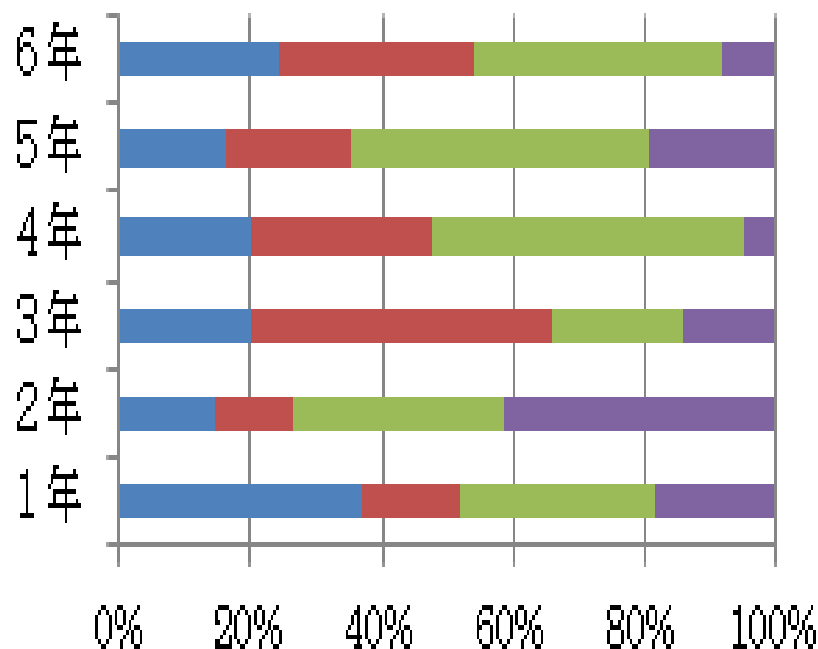
- ◆視点1 アンケートや児童の感想等から、指導を工夫し、
児童の確かな変容を見取る工夫
- ◆視点2 グループによる活動や体験的活動を積極的に取り入れ、
望ましい食習慣を身に付けようとする意欲を高める工夫
- ◆視点3 栄養教諭の専門性に基づく食に関する情報・知識・技能などを生かし、
学級担任と協同したTTによる指導の工夫



推進委員会（地場産活用事業）では！
子どもたちの最前線にいる先生方に農業を理解してほしい！そして、農業や食材への私たちの農家の思いを子どもたちに伝えてほしい。
私たちは、農業を体験する機会と場を提供します。
→農村ホームステイの実施

◆視点1 アンケートや児童の感想等から、指導を工夫し、
児童の確かな変容を見取る工夫

授業実践例
2年生 生活科
「学校農園大作戦！」
～野菜について知ろう」



- ①きれいなものはない
- ②減らしてから全部食べるようにしている
- ③減らさないで全部食べるようにしている
- ④ほとんど食べない

- 授業日を含めた3日間の給食で出された野菜
- 既存の知識、生活経験を基に野菜についての栄養について話し合う
- 視覚的にとらえる提示



Ⅲ 保護者への啓発

「早寝・早起き・朝ごはん運動」等の奨励

①子ども自身

②家庭

③地域

高い意識を！

■陰山英男氏による講演会

■生活リズムチェックシート

■メニューコンテスト

野菜に米粉 東神楽たっぷりのギョーザ作って！

給食レシピ 小中生が考案

【東神楽】本年度の農林水産省の「学校給食地場食材利用拡大モデル事業」に上川管内で唯一選ばれ、給食を通じた食育に力を入れている町教委は、町内の子供たちに食べたい給食メニューを提案してもらったコンテストを初めて行った。地場産の食材や食の大切さに関心を持ってもらうことが狙い。入賞したメニューは3学期にも給食で提供する。
(笠原悠里)

には町役場で賞状が贈られた。

ほか、子供たちから寄せられたメニューは特産の野菜や米粉を活用したピザやスープ、チャーハンなど。「嫌いな野菜も食べやすいようみじん切りに」「給食ではあまり出ないけど好きな料理を」との声も寄せられた。

子供たちの提案したメニューは

コンテストに138点
入賞作は3学期登場



栄養士らがアレンジを加えた上で、3学期に給食に登場する予定だ。将来的には定番化も考えている。

水野和男教育長は「子供たちが食に興味を持ってもらうきっかけにしたい」と話している。

町では1中学校と4小学校に給食を提供するが、食材費は年間約6500万円で、うち地元産が占める

割合は現状で1割未満。町教委はモデル事業の補助金も活用して新たなメニュー開発などを行い、本年度から4年かけて20%以上にする目標を掲げている。また東神楽小は全道で唯一、文部科学省の「スーパー食育スクール」に指定されており、町内の他の小中学校も協力校となって体系的な食育に取り組んでいる。

表彰状をもらい、笑顔を見せる給食メニューコンテストの受賞者たち（町教委提供）

推進委員会では！
食と農業を考える学習
会を実施したい！

「いきょうざ」が選ばれ、9月29日

すてきな笑顔と花のまち ひがしかぐら

実践に対する評価方法

食育の充実

学力の向上

生活習慣の改善・心身の健全
集中力の向上，生きる（学ぶ）喜びの上昇
周囲への感謝，自己有用感の高まり
よりよく生きようする思いの高まり

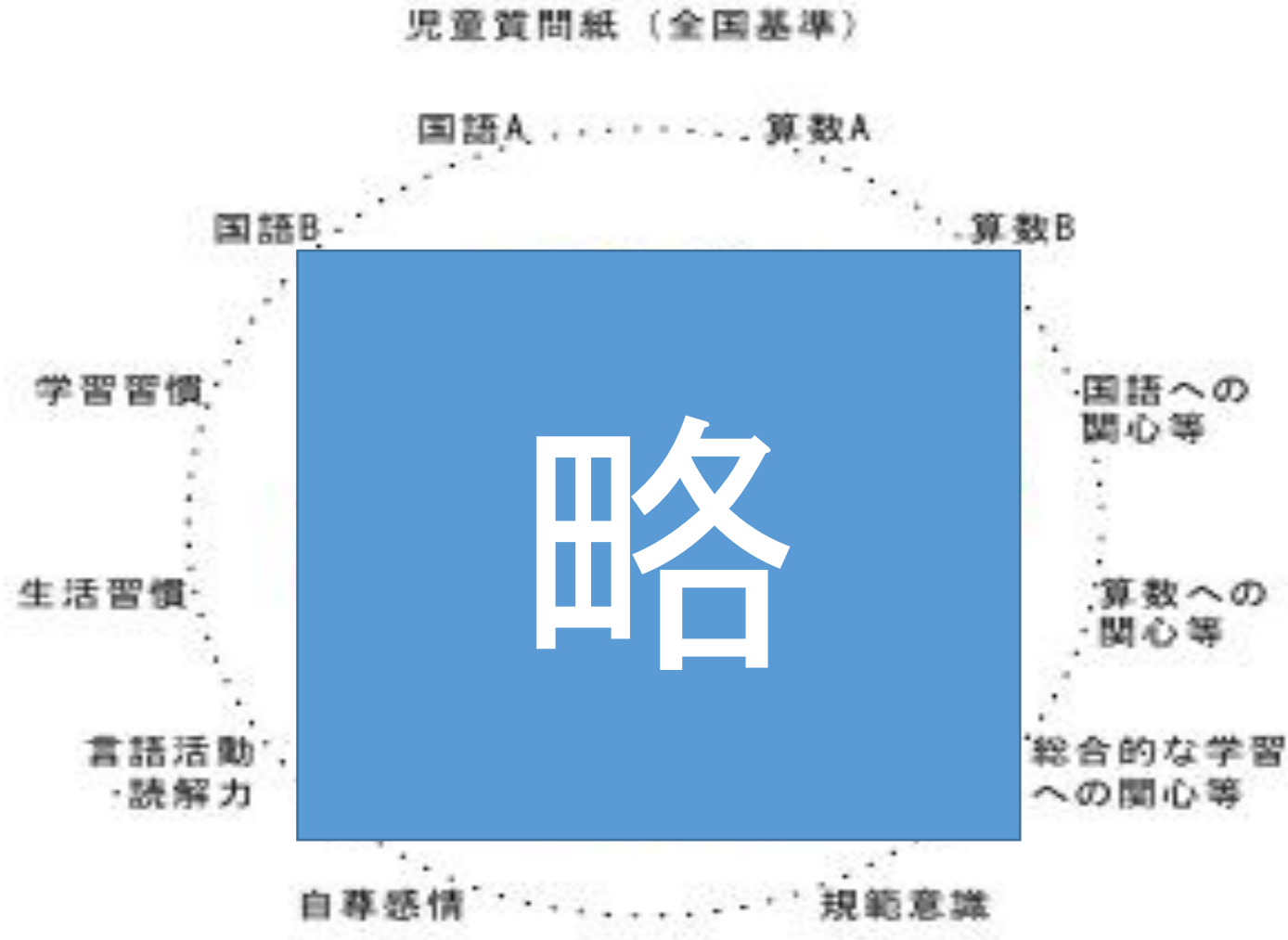
家庭の教育力の向上

全国学力・学習状況調査結果の活用

		24年度	25年度	26年度
国語	A 全国	81.6	62.7	72.9
	北海道	78.8	68.4	71.5
	東神楽小			
	正答数			
	全国比			
	全道比			
	B 全国			
	北海道			
	東神楽小			
	正答数			
算数	A 全国			
	北海道			
	東神楽小			
	正答数			
	全国比			
	全道比			
	B 全国			
	北海道			
	東神楽小			
	正答数			
全国比				
全道比				



全国学力・学習状況調査結果の活用 春と秋（CRT・NRT）の結果の変容



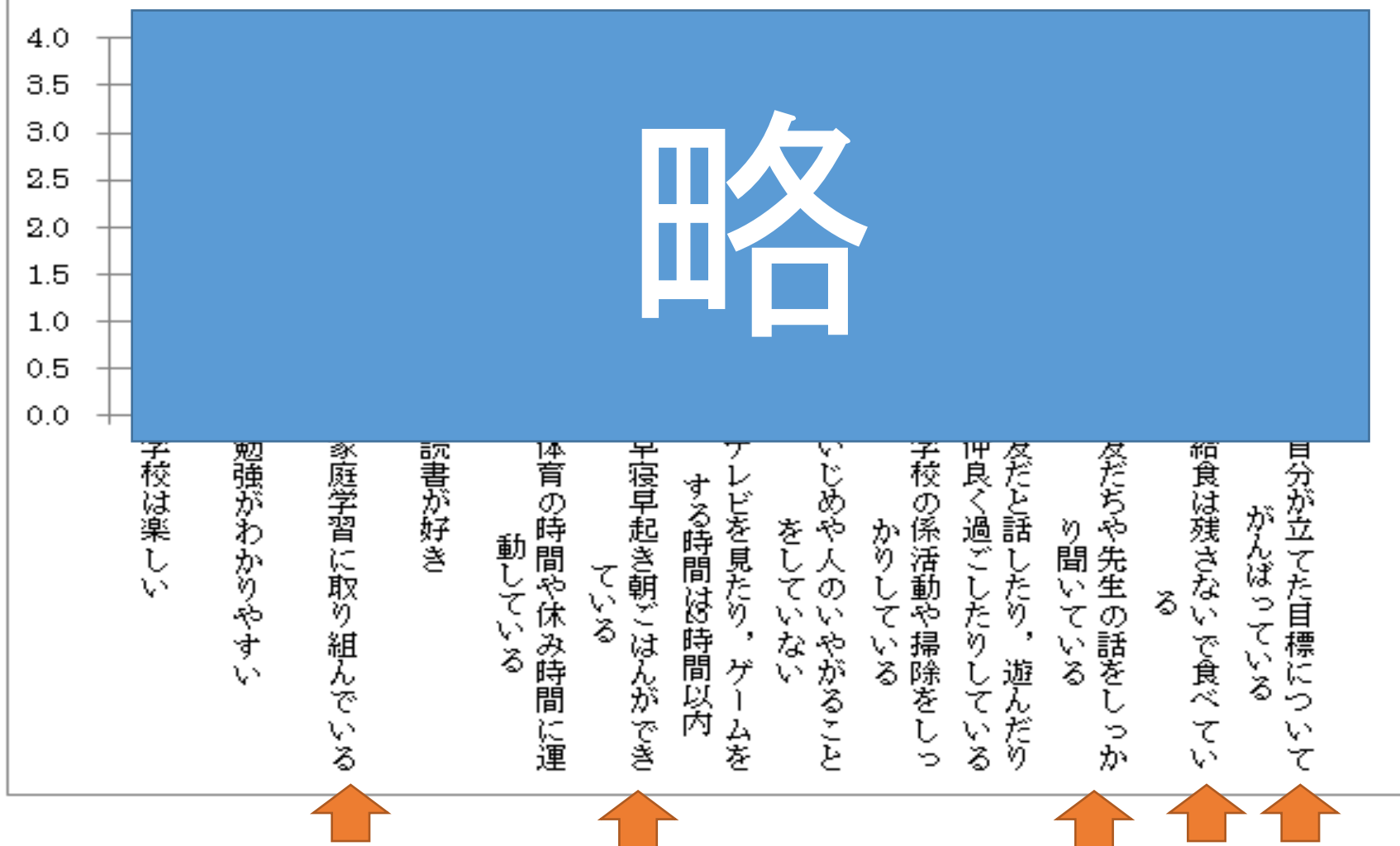
春と秋（CRT・NRT）の結果の変容

		2年	3年	4年	CRT	5年	CRT	6年	CRT
国 語	聞くこと	略							
	言語事項								
	書くこと								
	読むこと								
算 数	数と計算								
	量と測定								
	図形								
	数量関係								

児童や保護者アンケート

児童アンケート結果

全校



すてきな笑顔と花のまち ひがしかぐら

今後は！

（１）食育と学力・体力向上の関連性にかかわる科学的検証方法

→各種調査によって取得される個別的データを基に、
どのように互いに関連づけて分析するのか
旭川大学等の研究機関等と協議する必要がある。

（２）食事・栄養摂取状況を踏まえた指導の工夫

→より適切な栄養摂取に向けた配膳指導等の実施方法の検討
→欠食に加え、朝食の内容や栄養バランスなど、各家庭での生活習慣の向上に向けた指導や啓発の充実

? . 終了

— ご清聴ありがとうございました —

